

国定登録有形文化財
『太郎坊宮本殿等建造物群』部分



赤神山

赤神山
(あかがみやま)
赤神山とは、太郎坊
大神様がお鎮まりに
なる近江国高天原、
すなわち太郎坊山の
御名です。



↑ 太郎坊宮HP ↓

ご挨拶

太郎坊・阿賀神社宮司 奥田素之

今般の新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様には謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早いご快復を祈念申し上げます。また、感染防止に日夜ご尽力を戴いております医療関係者を始めとする皆様、人々の生活を支えるためにお勤め戴いている皆様には深甚なる感謝と共に、心より敬意を表す次第です。

疫病と我々人間との闘いの歴史は非常に古く、多くの歴史書にはその時々々の相が克明に記録されています。かつて病は悪鬼怨霊が引き起こすものとされ、薬師(くすし、当時のお医者様)と共に神官や僧侶が街中を奔走し、祈祷を行ったといえます。熟々惟みれば、神官僧侶達は病魔を祓うだけでなく、神仏によるご加護という心の安定材料を人々へ届けて

いたようにも思えます。

病魔から身を守るには、平素の心掛けが最も肝要です。既にご承知の通りかと思いますが、マスクの着用、石けんによる手洗い、うがいの徹底。更には「三密防止」の標語で夙に広まった「三つの密(密閉・密集・密接)」の回避。何より、充分な栄養と休息の摂取等々。予断を許さない状況下、皆様には是非ご自身で出来得る限りの予防策を尽くして戴きたく存じます。

太郎坊大神様の御神徳である「勝」は、決して他者を排撃圧迫して得る独勝を悦ばれるものではありません。感謝の心、慎みの心、助け合いの心。これらの心が昇華した時に啓かれる「勝(たえ、まさり、すぐれ、かつ)の心」をこそ本体とされます。困難を極めるこの時世にあたり、皆様と共に大神様の真の「勝」の御神徳に適うよう努めて参りたく思います。

皆様のお暮しが一日も早く元の日常となりますよう改めて祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

発行日 令和二年六月三十日
題字 陸軍大将 一戸兵衛
発行者 太郎坊宮社務所
東近江市小脇町二二四七番地

社務日誌 (抄)
参集殿日誌 (抄)

- 一月 歳旦祭
新春呈茶席
太郎坊宮敬神講社新春祈願祭
太郎坊宮敬神講社評議員会
どんど焼・古神札焼納祭
BSラジオ様
「さらピン！」番組出演
- 二月 節分厄除大祭
厄除招福神事
紀元祭
天長祭
祈年祭
- 三月 東海テレビ様
「スイッチ」取材
新型コロナウイルス流行鎮静祈願祭
例祭
- 四月 春季敬神講社大祭
日供講社祭
氏子渡御祭
昭和祭
- 五月 お田植大祭
- 六月 夏越大祓式
- 毎月 十五日 古神札等焼納祭
二十三日 月次祭
二十八日 赤神不動尊月次祭

恒例の諸祭儀を斎行しました

例年であれば大勢の参拝者をお迎えするお祭りですが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて規模を縮小。神職と巫女、ごく僅かな参列者のみで行いました。

◆節分厄除大祭

感染症拡散が比較的抑制されていた時期でもあり、例年通り開催。六名の年寿者と福娘、更に東近江青年会議所のキャラクター「かあくろう君」のご奉仕により、賑やかに福豆福もちまき神事を行いました。



◆新型コロナウイルス流行鎮静祈願祭

新型コロナウイルス感染症の早期鎮静と崇敬者皆々様の心身健康を祈る臨時祭を行いました。なお、この祭儀は全国各地の神社で行われています。

◆例祭

太郎坊宮で最も重要とされる大祭。「拜殿」及び「神楽殿」(どちらも国定登録有形文化財)において行いました。氏子総代や各種崇敬団体の役員各位からお供えされた品々をご神前に奉り、国家の安泰と地域の繁栄を念じて厳かに行いました。

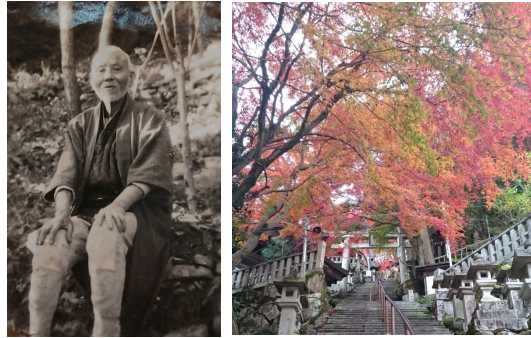


◆春季敬神講社大祭・日供講社祭

太郎坊宮最大の崇敬者団体である敬神講社の春の大祭です。講員の皆様の昇進隆昌、平穩無事、心願成就等が念じられました。また、時刻を改めて日供講社祭も実施。こちらは日々神様に供物をささげる崇敬者の団体です。講員皆様に更なるご加護があるよう、祈念しました。

ご神縁に感謝

表参道に彩りを添える大樹のモミジのたち。これらの木々は今から約八十年前、老蘇村（現在の近江八幡市安土町）の田中甚右衛門という老翁が植えられたものです（下写真は当時の田中翁）。



五月、そのご子孫にあたる鈴木靖将画伯が参拝されました。鈴木画伯は万葉集を題材にした絵画で知られる日本画家で、今回始めて太郎坊宮を訪れました。ご先祖が植えられた木々が今なお茂る様子に感激された画伯と共に、八十年を経て現在に繋がる御神縁の有難さを感じました。

※この絵画は、万葉集にある大伴旅人の秀吟を題材に描かれた鈴木画伯の作『梅の園』です。



◆氏子渡御祭

太郎坊宮の神様がおみこしに乗り、氏子の各地域を渡り歩かれるお祭り。神様が地域の繁栄を間近でご覧になるとともに、ご利益を氏子の方々へお授けになるという意味が込められています。本年はおみこし神事は自粛となり、代わって氏子各位の平安隆昌祈願及び病疫鎮静祈願を神社内で行いました。



◆お田植大祭

農業を始めとする様々な産業の発展と安全、無事を祈る大祭です。例年は華やかな衣装の早乙女さん十数人が稲苗の手植え神事をされますが、今年は関連する行事を含めて全て自粛となりました。大祭の儀式は神社職員、田祭を司る太田主、



数名の役員のみで執行。新型コロナウイルスの鎮静祈願も行いました。

また、八日市の大風文化を伝承する崇敬者有志が製作した「祈願の大風」も併せて奉納。訪れた報道陣に公開されました。



太郎坊宮敬神講社本部謹告

本年の太郎坊宮敬神講社支部の講元役員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を見合わせました。

また、同様の事由により敬神講社本部評議員会は招集せず、議案書の送付による書面審議としました。本年は常任評議員の任期年限を迎えましたが、敬神講社規約第二十三条に則った再任人事案をお諮りし、賛成多数による承認を戴きました。

※支部名簿順

- 会長 田邊長司様（能登川）
- 常任評議員 向井喜蔵様（市 辺）
- 田中由久様（近江八幡）
- 三大寺章様（湖 南）
- 北村忠男様（長 浜）

聖徳太子一四〇〇年祭に

参画しています

冠位十二階や憲法十七条の制定で知られる聖徳太子。聖徳太子は太郎坊宮とも深い繋がりがあり、「一〇〇〇年以上昔。この赤神山を訪れた聖徳太子が神祀りを行い、太郎坊宮の礎となった」という伝承が残されています。太郎坊宮に加え、周辺の社寺には聖徳太子の伝承が幾つも残されており、古い歴史を感じさせます。

そして現在、太子の没後一四〇〇年にあたる令和四年を見据え、聖徳太子伝説を持つ社寺や東近江市役所が中心となって一大事業を計画しています。



各社寺の宝物秘仏の特別公開、太子の軌跡を辿るツアーや催しなどが企画されており、当神社も積極的に関わっています。

聖徳太子一四〇〇年祭 連動企画

— 聖徳太子創建の四天王寺参拝と和泉国一宮・大鳥大社参拝 —

本年の敬神講社本部主催の研修旅行は「聖徳太子一四〇〇年祭連動企画」と題し、左記の行程で執り行います。

※講元役員各位には追って案内状をお届け致します

※感染症の影響により、行程が変更または中止になる場合があります。

日程 令和二年十月十五日～十六日

宿泊 塩田温泉郷 夢乃井

会費 一泊二日 二万八千円

◆旅程のご案内

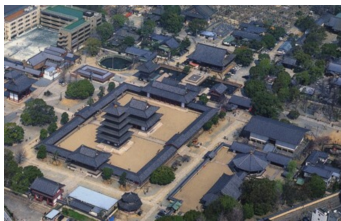
◆大鳥大社（正式参拝／下）

和泉国第一の大社として

崇敬を集める神社。

◆四天王寺（左）

聖徳太子が建立したと伝承される大寺院。四天王寺の屋根瓦は、太郎坊山系で焼成されたといわれます。



◆射楯兵主神社（左上）

播磨国の神々を総じる神社で、古くは総社と号した由緒ある大社。

◆姫路城（左下）

青空に浮かぶ美しい白壁は世に白鷺城と讃えられる、国宝の大城郭。



表紙解説

今号表紙は、昨年九月に国定の登録有形文化財となった当神社の社殿等建造物群の空撮写真を取り上げました。

今回登録された建造物が建てられた時代は江戸から昭和に至るまでと、大変幅広いものです。その種類も社殿や舞台、鳥居と様々ですが、いずれもが当時成し得た技術の限りを駆使し、急峻な斜面に建立されている点が評価されています。

— 太郎坊尊の大祭典 —
千日大祭のご案内
 (七月二十三日・二十四日)

— 千日大祭に参拝すれば、
 千日間の参拝と
 等しきご利益を得る —

こう言い伝えられる、
 太郎坊宮・千日大祭。
 「太郎坊尊の大祭典」と
 讃えられた千日大祭は、
 数百年の歴史を持つ祭礼
 です。

今年も古式にのっとり、
 諸願成就の大祈禱を執り
 行います。大祈禱では、
 皆様に太郎坊大神様の尊
 いご加護があるようお祈
 りし、巫女による神楽の
 舞を特別に奏でます。
 また、大祭期間中は境
 内のライトアップを実施。
 神秘的な空間を描き出し
 ます。心静かに、夜の太郎坊宮をお参りく
 ださい。

※本年は新型コロナウイルス感染症の
 影響を鑑み、一部催事を中止または
 縮小して開催致します。



千日大祭 大祈禱

(午前九時～午後四時)

千日大祭期間中のみ行う大祈禱。特別
 祈願神札等をお授けします。

千日大祭 各種催し

◆ 拝奉納ふうりん受付 (新企画)
 長浜市の(株)黒壁との共催企画です。
 風鈴の短冊に願いを書き、涼やかな音
 色と共に神様へささげます。

◆ 特別な「おまもりづくり」
 千日大祭期間中だけの特別なおまもり
 づくり体験をご用意。



◆ 千日大祭参拝記念ご朱印
 千日大祭の祭日に参拝された方だけに
 特別な御朱印をお授けします。

新しい授与品のご紹介

◆ 最勝石指輪守

五〇〇〇円

太郎坊宮ご神前にそ
 びえる夫婦岩。その原
 石片「最勝石」を封入
 した指輪型のお守りで
 す。内側先端に最勝石
 を納め、更に「近江高
 天原太郎坊宮御宝前夫
 婦岩御守護最勝石」の文言を彫刻。ご神前
 で祈禱を修した、特別な授与品です。



◆ 宝当守

一〇〇〇円

あらゆる宝が舞
 い込むよう、特別
 に祈願した御守で
 す。金地に光彩が
 輝くデザインが鮮
 やかで、お財布などにも入れやすいカード
 タイプのお守りです。



◆ 疫病除御守

一〇〇〇円

病魔を祓い除くお守りです。今回の感染
 症拡大を受け、ご崇敬各位からのご要望に
 よって数量を限って
 製作したものです。
 ※七月以降、授与を
 開始します。



—登録有形文化財保存修復事業— 『令和の大整備』のご案内

令和元年九月、太郎坊宮の御本殿（下写真）を始めとする建造物十五件が、国の登録有形文化財に登録されました。

これを受けて発足した文化財保存修復事業『令和の大整備』は、文化財の恒久的な保存と修復を目的とするものです。本事業は一過性の工事業ではなく、文化財を後世に伝え残すことを目的としています。安定した事業を継続して実施するために、原資となる基金の積立を行い、必要に応じた改修を適宜実施します。

事前調査の結果、十五件の文化財はそれぞれ保存修復に要する程度が異なることが明らかとなっています。

現在は文化庁・県市教育委員会との協議を進めており、優先度が高いと認められた文化財から順に改修を行う予定です。



また、専門家の「文化財を有意に活かしつつ永続的に保存する」という助言をもとにした、文化財の活用計画も策定中です。

中でも、「永安殿（えいあんでん、明治四十年築、写真右）」と「長楽殿（ちやうらくでん、昭和五年築、写真左）」が連なる一帯は、社務や敬神講社を司るとともに、多くの崇敬者方が集う

「太郎坊宮の中枢」でもありました。

そうした歴史的背景も踏まえ、崇敬者の皆様が身近に足を運び、過去から現在に繋がる信仰の歴史を感じて頂ける場としていく予定です。

◆本事業は喫緊の課題を有するため、計画及び実行、そして各種ご案内を同時に進めております。追って全容をお示し致しますので、不明瞭の点は何卒ご容赦下さい。



◆『令和の大整備』事業概要

【事業主体】

太郎坊宮（宗教法人 阿賀神社）

【目的】

登録有形文化財十五件の恒久的な保存及び修復を図り、以て神道文化の興隆と郷土文化振興の一助と為す。

【基金目標額】

文化財の恒久的な保存及び修復のため、金三億円を目標とする。

今後の主な神事予定

- ◆夏越大祓式（六月三十日）
- ◆合祀祭（七月十五日）
- ◆献茶祭（七月二十三日）
- ◆千日大祭（七月二十三・二十四日）
- ◆拔穂祭（九月下旬）
- ◆観月祭（十月一日）
- ◆秋季講社大祭および
功績者表彰式典（十一月一日）
- ◆一願成就社報恩祭（十一月三日）
- ◆新嘗祭（十一月二十四日）
- ◆献菊祭および
菊花展（十一月上旬）
- ◆七五三参り（十一月中）
- ◆お火焚大祭（十二月六日）
- ◆大祓式（十二月三十一日）